

第62回

教育科学研究会全国大会・北海道大会

対面
オンライン
併用

2024年8月
6日(火)・7日(水)・8日(木) //

危機を希望に

子どもとともに今をみつめ、未来をつくる

主催 教育科学研究会・北海道大会実行委員会 後援 (交渉中)

schedule

day1 6日(火)	10:00 - 12:00	教科研講座	day2 7日(水)	9:30 - 17:00	分科会
	13:30 - 17:00	はじめの集い		17:15 ~	教科研総会
	18:00 ~	夕食交流会	day3 8日(木)	9:30 - 11:30	教育問題フォーラム
※夕食交流会の詳細はホームページをご覧ください				12:30 - 14:00	おわりの集い

★ はじめの集い (対面オンライン併用) day1 ▶ 8/6 13:30 - 17:00

◆ 現地実行委員長あいさつ

◆ 教科研委員長あいさつ

◆ 講演と演奏 【テーマ Diversity】



小川 基 (おがわもとい)

アイヌ文化に囲まれて育ち、アイデンティティの葛藤から沖縄へ。

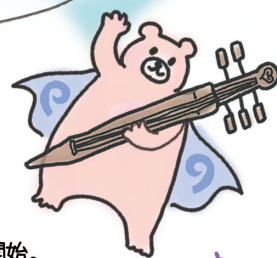
琉球文化の誇りに感動し、北海道へ戻る。

アイヌの古老を訪ねアイヌ文化を見直し、2010年「ToyToy屋」の屋号で活動を開始。

アイヌ切り絵・アイヌ文様の制作・販売やトンコリ・ムックリ演奏などの

ワークショップを国内外で展開中。

今回は北海道にて開催！
開催地の詳細は最後のページの
会場案内をご覧ください



◆ 現地企画シンポジウム 【地域の課題と向き合い、このまちの子ども・若者をつくる実践】

北海道は、人口減少や一極集中などの全国的な課題の縮図であり、「課題先進地域」の一つです。

こうした北海道の各地で、それぞれの地域の課題と向き合いながら、子ども・若者と共に実践を立ち上げている方々の語りを通して、「地域の課題」の認識を深め、いまの子ども・若者の姿を捉え、

私たちが取り組むべきことや問い直すべきことを、共に学び合い・考え合います。

登壇者 大辻 雄介 (おおつじ ゆうすけ)

大空町立北海道大空高等学校 校長

島根県海士町や高知県土佐町にて「高校魅力化プロジェクト」に携わる。

2020年度に北海道大空町で町立高校を新設するにあたって学校づくりに携わり、翌2021年度から初代校長として着任する。

「飛行機人」をスローガンに地域に根差し世界に羽ばたく人を育てている。



★ 教科研講座 大会本番開始前に、教育と文化の視野を広げましょう！ day1 ▶ 8/6 10:00 - 12:00
(対面のみ)

講座 1

哲学対話で教育学入門

谷口 檜 (山梨) 荒井 嘉夫 (東京)

哲学対話で考え議論する、教育実践者のための教育学入門講座です。
専門知識は不要、教師以外の方も大歓迎。
講師は神代健彦常任委員 (京都教育大学)。



講座 2

「私の教室ものがたり」からはじめよう

横田 誠仁 (東京) 石本 日和子 (兵庫)

「学校」や「いつ面」ではない人に出会い、失敗、喜び、逡巡、やるせなさを語り合ってみませんか？
台本ナシ、結論ナシ、あなたの物語で大会をはじめましょう。

講座 3

マンモス・ナウマン、
アイヌと移住、憲法ツアー

佐藤 広也 (北海道)

北海道博物館を訪れ、マンモスとナウマンゾウの時代からアイヌの長い歴史と和人の移住。そして、憲法をめぐる闘いについて、講師の佐藤広也さんと考えませんか。現地まで移動のバス代・入館料がかかります。
※事前申し込みが必要です。詳細は、ホームページをご覧ください。

講座 4

まおい学びのさと小学校を
知るツアー

細田 孝哉 (北海道)

まおい学びのさと小学校の周辺環境・自然も含めて知ってもらうツアーです。現地で説明を交えて、子どもたちの活動の様子がわかる構造物や校庭の様子を見てもらいます。定員25名、先着順。
※事前申し込みが必要です。詳細は、ホームページをご覧ください。

講座 5

アイヌの今と文化を知る
ーワークショップ形式ー

小川 基 (北海道)

アイヌの人生の語りを聴き、その後にアイヌ文様創作の体験をしてもらいます。講師は小川基さんです。定員あり、先着順。材料費がかかります。
※事前申し込みが必要です。詳細は、ホームページをご覧ください。

★ 分科会 分野ごとにじっくり学びます。気軽に参加、丁寧に聞き話し一夏の充電を！

day2 ▶ 8/7 9:30 - 17:00

3つに分かれます

◎ 対面オンライン併用

△ 対面のみ

▲ オンラインのみ



分科会 1 子どもの生活と文化 泉 宜 宏 (東京) 阿部 俊樹 (北海道)

◎

豊かな子ども期・青年期を保障するために
○家庭・学校・地域で子どもたちの「いま」、子どもをリアルにとらえる
○子ども・青年がそのまの自然、自然の中で生きることの意味
○未来に向けて人はつながることができる～物語・ファンタジーの世界の意味

分科会 2 青年期の教育 児美川 孝一郎 (東京) 本多 由紀子 (北海道)

◎

教育改革に抗し、学校内外に豊かな青年期の教育を
○高校統廃合・再編と学ぶ権利のゆくえ
○青年期に向きあう教育実践 ○若者を地域につなぐ取り組み

分科会 3 能力・発達・学習 神代 健彦 (京都) 藤澤 淳 (北海道)

◎

子どもが抱え込めるを得ない〈悪〉を考える
○子どもの発達にとって〈悪〉とは何か ○学校は子どもの〈悪〉とどう向きあうか
○若者たちとのうまくいかなさ、ままたらなさを生きた若手教員

分科会 4 身体と教育 板谷 厚 (北海道) 横田 誠仁 (東京)

◎

豊かな子ども時代を育む「身体と教育」ー喪失から獲得へー
○家庭・学校の場面で ○地域・社会の場面で ○政策の場面で



分科会5 美的能力と教育 青柳 貴宏(東京) 山田 康彦(三重)



- 表現を通して人々が文化の主体になる途を探る
- 一人ひとりの発想を大切にしたい幼児の美術活動
 - ドラマの手法を生かして対話と新たな世界を拓く授業
 - 患者さんの表現を生み出し病院を問うホスピタルアート

分科会7 社会認識と平和 佐藤 広美(東京) 廣田 健(山梨)



- 平和の危機の時代における教育実践の課題
- 戦争の現実を子どもたちとどう語るか
 - 格差・貧困の中で生きる子ども・若者と何を学ぶか
 - 平和教育の思想と実践をいかに学ぶか、どう継承するか

分科会9 道徳性の発達と教育 櫻井 敏(東京) 前田 歩里(北海道)



- 子どもの現実と向きあう生活指導と道徳教育
- 地域生活指導とは何か：フリースクールで子どもと歩む
 - 学校は子どもの(悪)とどう向きあうか
 - 中学生の現実と向きあう総合・道徳の授業実践

分科会11 学校づくり 田沼 朗(東京) 間宮 正幸(北海道)



- いまを生きる子どもと共に学校をつくる
- いま、子ども・保護者・教職員は
 - 子どもが主体となる学校をつくる
 - 学校の困難をどう打開するか

分科会13 政治と教育 寺尾 昂浩(神奈川) 中田 康彦(東京)



- 若者をとりまく政治と社会の困難と向きあう
- 対話と表現で「政治」を切り拓く
 - 公共性の空間感覚を育む
 - 危機の中から政治を立ち上げるには

分科会15 発達障害と教育 加茂 勇(新潟) 小池 雄逸(東京)



- 子ども理解の深化と自己の育ちを支える実践の追求
- 一人ひとりの願いや困難、教師・援助者や家庭への理解を深める
 - 子ども・青年の「自己の育ち」を支える教育実践のあり方を探る

分科会16 現代の子育てと親・おとな 渡邊 由之(大阪) 石本 日和子(兵庫)



- 子どもの育ちを熟考する
- 学校や社会において子どもがゆたかに育つためのゆとりがどれほどあるのか、
 - いま子どもの育ちは十分に保障されているのか、
 - 参加者とともに考えたい。

分科会18 教室と授業を語る 中村(新井) 清二(東京) 石垣雅也(滋賀)



- 今、「この条件」の教室で可能な、授業・実践とは
- 多忙化、デジタル化、〇〇学習、〇〇スタンダードなどが、授業の画一化の進行を生んでいる現状
 - そのような条件下における授業づくりの突破口はどこにあるか
 - 同僚と共に授業をどうつくっていくか

分科会6 ことばと教育 瀧口 優(東京) 神 郁雄(東京)



- 主体的な学びをつくることばの教育
- ことばの豊かな発達とコミュニケーション
 - ことばを育てる国語・外国語の授業
 - 生活に根ざして紡ぐ自己表現活動

分科会8 自然認識と教育 三石 初雄(東京) 伊東 大介(東京)



- “環境としての自然”の意味と価値を探る
- “環境としての自然”の教育的意味と価値を探る
 - 子ども・青年のもの／自然認識の現代的特質を探る
 - 自然認識発達における本質的学びを創る

分科会10 教育課程と評価 本田 伊克(宮城) 菅間 正道(埼玉)



- 日々の教育実践のなかに生きる教育課程づくり
- 学習指導要領改訂に向けた動きはどうなる？
 - 教室から芽生えるカリキュラムづくり
 - 学校と地域の宝物を子どもと教師が発見する学び ほか

分科会12 地域と教育 相馬 直美(埼玉) 安藤 聡彦(埼玉)



- く“ひとなる”ことの舞台)をともに学びあう
- 子どもたちに「自由な学び」を保障する場をつくる：
その理念、歴史、実践
 - 「自由な学び」を保障する条件整備とは？
 - これからの課題は何か？

分科会14 性と教育 杉田 真衣(東京) 中嶋 みさき(東京)



- 子ども・若者の権利と性
- 子ども・若者の性をめぐる現状
 - 権利としての性の学び 実践報告 ○総括討論

分科会17 教師の危機と希望 霜村 三二(埼玉) 太田 一徹(北海道)



- 今日の教師の危機とどう向き合うか
- 教師の専門性を揺るがす政策動向
 - 教師が直面している困難とは何か
 - 教師の誇りのありかを探る



★教育問題フォーラム（対面オンライン併用）

子どもや教育をめぐる課題をさまざまな角度から考え合いましょう！ day3 ▶ 8/8 9:30 - 11:30

A 教員不足問題と教師の専門性 佐藤 隆（埼玉） 杉浦 孝雄（東京）

深刻な教員不足のなか、文科省はさまざまな手で教職へのハードルを下げようとしているが、教師の専門性は本当に担保されるのか否か。その検討が求められる。

B 街中でのユースワーク 南出 吉祥（岐阜） 高嶋 真之（北海道）

家や学校に居場所を見出せず、街頭にたむろする若者たちと社会をつなぐ実践の展開と課題を探ります。
報告：「大通ユースワーク」（札幌）／「#栄でチルする？」（名古屋）

C ケアから教育をまなぐす 荒巻 りか（東京） 山形 志保（北海道）

「保健室から創る希望」山形報告と「教育と福祉の出会うところ」荒巻報告から、子どもが生きる学校を参加者で考えあいます。

D 不登校を保護者・教師と考える 片岡 洋子（埼玉） 吉田 圭子（北海道）

子どもの学びや成長を保障する居場所づくりや、不登校の子をもつ親の会、不登校に向きあう教師の悩みなど、様々な視点から不登校について考えます。

E 学習指導要領と教育の自由 本田 伊克（宮城） 櫻井 欽（東京）

学習指導要領について、最近の事件からその法的性格を検討しつつ、子どもたちの豊かな学びを保障するための教育の自由について考えていきます。

★おわりの集い（対面オンライン併用）

現地教師からの報告をもとに参加者で語り合います！ day3 ▶ 8/8 12:30 - 14:00

★参加申し込み

教育科学研究会ホームページ <https://kyoukaken.jp/>（「教科研」と入力しても開きます）の大会特集ページからPeatixを利用して参加費を納入の上、お申し込みください。

※報道関係者による取材申し込みに関しましては、事前に教科研事務局まで連絡をお願いします ▶ kyoukaken@nifty.com



教科研ホームページ

★キッズルーム

対象は3歳から小学生です。
参加申し込み後に配信されるGoogleフォームにて申し込みください。
詳しくは問い合わせ先にご連絡ください。

★宿泊・昼食

各自でご用意ください。

★会場案内 札幌学院大学 新札幌キャンパス

北海道札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1

JR千歳線、札幌市営地下鉄東西線 新札幌駅下車 徒歩5分

JR札幌駅から10分、地下鉄大通駅から18分



★参加費

	教職員 (常勤)	一般 (保護者・市民・退職者など)	学生・院生 (高校生以下 無料)
全日参加	5000円	4000円	1000円
1日参加	3000円	2000円	



アクセス

【割引】 教科研会員 ▶ 500円引き 北海道内に在住・在勤の方 ▶ 全日参加は1000円引き / 1日参加は500円引き

★お問い合わせ

教育科学研究会（金曜日13:00 - 17:00） 〒162-0818 東京都新宿区築地町19小野ビル2階

TEL&FAX 03-3235-0622 Eメール kyoukaken@nifty.com